

NAGASAKI

看護連盟だより



諫早市栄田町



会長挨拶..... 2

参院選を終えての声..... 6 ~ 7



選挙結果..... 3

編集後記..... 8

支部長のふりかえり..... 4 ~ 5

「無念無想」組織強化達成出来ず

会長 山口 ミユキ

第21回参議院議員選挙の敗因は何であったか。組織人として懸命に努力し、活動した同志は、必ず残念に思い反省されたことと思う。看護界の過去を知るとき（歴史）政治力で果たした業績は実に大きい（井上なつゑ・林塩・石本茂・清水嘉与子・南野知恵子・能勢和子・阿部俊子先生）。ご苦労された諸先生に対して、謝意を表しながらこの度の敗因を考えてみたい。



1 組織人として各々が役割を果たすことができたか。

- ・政治力の必要性を十分認識していたか。
- ・誰のため、何のための活動か。
- ・自分のことと思っていない、人から云われたから仕方なくやる活動。
- ・だから無責任であると考えられる。

2 だから、リフォーム長崎県看護連盟が誕生したのに、

- ・リフォーム連盟完結年（完成途上）で時間不足であったのか。末端会員まで十分理解浸透がなされなかったのではないか。

3 「アンフィニA」の理解に苦慮した。

- ・アンフィニAを連盟会員（親）とし、その会員は、信頼出来る知人等2人を育てる（子供）ことに時間を要した。

4 組織強化、選挙運動の区分に力注した。

- ・公示前と公示後、公務員と非公務員の活動のあり方についての学習会は効果的であったか。（違反行為はなかった）

5 リーダー、施設連絡員の役割

- ・各々の施設も、リーダー、施設連絡員が主体的に活動されたが、結果的には会員の投票行動に結びついただろうか。

一票獲得することの困難さが痛感される。

6 推せん母体の「看護協会」との関係

- ・選挙対策室を設け、組織図に基づき活動したが、十分機能させることが出来なかった。
- ・協会会員であって連盟会員でない人々。（今後の課題）

以上、反省としながら終わりに

「ベッドサイドから政治を変える」ために大活動した平成19年度の看護政策推進大会であった。それは看護協会が打ち出した看護政策実現のためであった。

- ・看護基礎教育の見直し
- ・労働改善による看護職員の確保定着の推進
- ・看護の質向上と看護職の活用の促進
- ・看護制度の見直しと国家予算・税制の推進 等

目的達成出来なかったこれからの道、行き詰まりを覚えることと信じます。本当に一同心合わせてやる気・本気・根気で活動したと、自信をもって言えない現実を、これからの問題として取り組む必要性があるのではないかと思う所存です。

同志として懸命に活動していただいた皆さまに感謝すると共に、益々のご活躍とご発展を祈念して、ふりかえりと共にお礼のことばと致します。

平成19年8月9日

- 被爆62周年、世界人類の恒久平和、
併せて前長崎市長伊藤一様のご冥福を祈りながら -

第21回参議院選挙 都道府県別得票数

上位 5 県

	県名	会員数	得票数
1	岡山	7,744	7,976
2	福島	6,617	7,458
3	熊本	6,138	7,366
4	長崎	4,673	6,694
5	福岡	7,792	6,279
	全国	190,943	167,595

松
原
ま
な
み



応援ありがとうございました。



松原まなみ得票数

総得票数 **6,694**

県南地区 2,931

長崎	2,401
長与	282
時津	170
西海	78

県央地区 2,027

諫早	1,093
島原	121
南島原	236
雲仙	268
大村	250
東彼杵	18
川棚	17
波佐見	24

県北地区 1,310

佐世保	1,075
平戸	82
松浦	38
江迎	32
鹿町	25
佐々	52
小値賀	6

離島地区 426

五島	235
新上五島	177
壱岐	8
対馬	6



阿部先生応援写真



リーダー研修会



長崎の松原まなみさん

支部長として連盟活動を振り返って

県南地区第1支部長 浦瀬 妙子



リフォーム連盟が始動し、「ベッドサイドから政治を変える」をスローガンに、連盟活動を行ってきました。残念ながら結果を出すことは出来ませんでした。会長・役員・施設リーダー・会員の協力に支えられながら活動できたことに感謝申し上げます。今回の選挙は、たいへん厳しい逆風の中の選挙戦ではありましたがこれだけ頑張ったという思いもあり、報告される数を計算しながら安心していただけました。しかし、今回のリフォーム連盟は、政治と看護を考える十分な活動だったと思っています。連盟の歴史から勉強させて頂き、政治活動と選挙活動を実際経験し、選挙がそれ程甘いものではないことを実感しました。反省することはたくさんありますが、今後もこの苦い経験を忘れることなく政治に関心をもち、私達の代表を国会へ送るという使命を果たせるよう努力していきたいと思っております。会員一人一人が積極的に連盟活動に参加し、政治に関心をもつ組織でありたいと願います。今回は、本当に残念な結果となってしまいましたが、皆様たいへんご苦勞様でした。

私達の代表を国会へ

県南地区第2支部長 久米 春代



残暑の候、会員の皆様におきましてはますますご清祥のことと拝察いたします。

さて、第21回参議院選挙では、今まで以上の団結力、行動力をもって施設リーダー・連絡員の方々と共に活動をしてまいりました。看護界を変えるために、リフォーム連盟の結果を出したかったのですが、力及ばず目的を達成することができませんでした。一票の重さを感じさせられました。

しかしながら、落胆ばかりしてはいけません。今回のリフォーム連盟活動を振り返り、もっと多くの支部づくりをする必要があるのではないのでしょうか。会員自らが行動・活動できる連盟になる様、一人でも多く私達の代表を国会へ送り出すために、未来へ向って頑張りましょう。



支部 ふりか

「選挙後遺症」

県南地区第3支部長 松本不二子



7月29日の悪夢のような日から、もう1週間がたちました。民主党の躍進の影に自民党の惨敗があって、今も安倍政権の支持率が落ちていく事を今夜のニュースは伝えていきます。自民党逆風といわれた今回の選挙、私達の松原まなみさんもこの風にさらされたのでしょうか。わかりませんが、わかりませんが、結果的に自分達の組織票をまとめる事が出来なかった。長崎での6694票は目標の半分しかいっていません。全国比例18位の16万7千6百票でも私達が目標に達していたなら、おそらく会長も幹事長も長崎はよくやったと胸を張れたでしょう。立て直すべきリフォームの成果がこの結果だったので、支部組織やその機能について反省し見直さないと今後の活動の方向が見えてこないと思います。ただ今はまだショックが残っていて、この現実を受け入れる事がしっかり出来ていません……。今まで2人いた参議院議員が1人減る事でどれだけの看護政策上損益を受けるか、しっかり会員は目を開いて見ていくべきだと思います。若い会員は自分の一票が自分自身のための一票である事にもっと気づくべきだと思ってくやしいですし、私の力のなさにも申し訳ないと思っています。

今こそこの結果を糧として

県南地区第4支部長 林田 英子



参院選挙へのご協力ありがとうございました。各施設でも施設リーダー・施設連絡員を中心に、自分たちの活動として本当に頑張っていたいただきました。選挙終盤まで確実に票が伸びていた筈なのに、非常に残念です。いろいろな思いはありますが、今こそこの結果を糧として、真に「ベッドサイドから政治を変える」組織への第一歩を踏み出す必要があります。看護連盟は看護職のための組織です。組織を強くしましょう。これからも現場の声をお寄せ下さい。

参議院選挙を終えて

県中央地区第1支部長 伊達 信子



皆様、ご協力ありがとうございました。アツイ、アツ〜イ夏、長い長〜い、アンフニィA活動。今までの2年間が何だったのか、今回の結果を出すための活動だったはずである。努力が実らなかつた虚しさか、いや、後1歩の押しの足りなさか、よく分からなかつた、とにかくガックリしてしまつて、何ともやりきれない。

これが、看護の未来に賭けた戦いだったのか。本当に本当に形振り構わず、今までにない政治活動、選挙運動に全力投球してきた。

今、エネルギーを使い果たし、空っぽの状態だ。周りの人たちに、協力して頂いたことへの感謝と、申し訳なさが入り混じる。この選挙を通して学んだことがある。候補者への投票をお願いして、人の誠実さとは、「投票に行ってきたよ」「息子と2人で行ってきました」と電話をもらった時のうれしさ。そうかそれが、本気で応援してくれているという「誠実さ」なのだ。

自分が一番信頼できる、交友関係もがセレクトできた。頼まれれば、一応みんな「ハイ」とは返事はするけど、親兄弟なら行ったね、まだなら行ってきてね。行ってよと言えるけど、人様に何回も何回も、お願いをして、余りしつこいと嫌われるよね、とか、またか〜と思われるよねとか、いろいろと思ひ悩む。

何回も言える人、何回言っても関係が壊れない人、言にくい人、二度と言いたくない人、この人は1回言えばきっちりやってくれる人、いろいろあったが、今までに、これほどまでに人に頼み事をした経験がない。人様に物事を頼むということの難しさも体験した。

「看護政策実現のために」「国民の安心と安全のために」「看護の未来のために」燃え尽きたこの選挙戦だった。どんなに頑張っても、1人では1票しかない。みんなの力を合わせれば何とかできると期待も高まった選挙だった。

協力してくれた人たちに、当選してお礼が言いたかつた。それが叶わなかつたのだ。残念でたまらない。

汗は成果を裏切らない？

県央地区第2支部長 星田美恵子



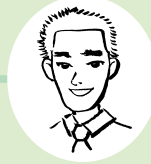
今日はもう8月5日になりました。でも、ずーっとぼんやりしています。全国167,593票、長崎県6,694票落選。

「私は選挙の結果をみて私の力が足りませんでしたとは言いたくありません」と松原まなみさんはおっしゃいました。言わせません。どんなことがあるかと絶対言わせませんと誓ったのに。今回は心底頑張りました。松原さんが好きだから、松原さんの思いが好きだから県央地区は一丸となって戦いました。汗は成果を決して裏切らないと思っていました。

車をぶつけ、右手を火傷しそれでも「何とかならんとね」と思っています。車はお金を出せば修理できるし、手も時期がくれば回復するでしょう。でも松原さんの失ったもの、家族との時間、希望、達成感を取り戻せません。松原さん、ごめんなさい。

残念・感謝・反省

県央地区第3支部長 濱崎 徳彦



7月29日、三人寄れば文殊の知恵の、一角がなくなりました。大変残念で日頃から、ご鞭撻下さった、松原さんの落選には、言葉もなく、応援に力及ばなかった事に申しわけなく思う日々であります。成せば成る、成さねば成らぬ選挙でした。アンフィニ、目標を達成する為の方法論としては、若い会員に当時者として自覚を持たせ明確で具体的な目標を与えて、意識行動をボトムアップさせたと思ってます。精一杯努力したつもりでも...確実な名簿チェック、連盟の存在意義の啓蒙、支部レベル、院内レベルでの研修、施設内外でのネットワーク充分だったのか...振り返って情けない大きな課題を残したことを、実感しています。しかし、私達は看護の道に憧れ、目指してきた夢や期待を、努力の糸でも叶えられる職域でありたいものです。安定・成長する職域を願うならば、今以上の連盟活動が必要だし、目まぐるしい変革の中国民の健康を守り育む為に看護職は政治に参加しなければなりません。私は今後も、精一杯、誠意をもって与えられた役割を果たしていくつもりです。健康で安心して暮らせる社会を造る為の活動である、連盟活動に誇りを持って！

連盟活動の再考を！

県北地区第1支部長 薬王寺和子

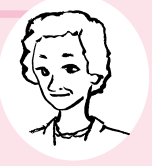


会員みなさまへ

本当にお疲れさまでした。厳しいということは感じていました。期待通りにならず、残念というより心が痛みます。この前の選挙より頑張ったという自負心がありましたから。組織を強化し、アンフィニAを集め、何回も研修会を開催し、29日の選挙では目標に到達するはずでした。しかし、いざ選挙戦に入ってみると確実らしいデータは見えるが、確信が持てないのです。報告だけで行動が一向に見えなかったからでしょう。不安を感じた時は、必ず顔を合せて依頼し確認をとりました。その時の雰囲気は信じるに値する力強さがありました。だけど結果は...。目標に達することはできませんでしたが、連盟活動について再考しなければならないことが見えてきました。リフォーム看護連盟は会員の意識を変えたのでしょうか。会員の末端まで情報が伝達できたでしょうか。会員一人ひとりが自分のこととして活動したのでしょうか。会員全員が主体的に行動しなければ、一歩も前進しないことを改めて痛感しました。さあ、みなさま、しっかり考えてください。あなたのことなのです。次回の成功を目ざして。

熱き行動を終えて

県北地区第2支部長 吉村津弥子



平成17年7月、会員の組織強化を大目的として県北地区支部に2支部が誕生した。昨日のことのようです。

自分たちのことを、本当に自分たちのこととして、看護の環境を変えて、良い看護を提供したい、看護職の社会評価を高め、看護が責任ある仕事と自覚して、誇りを持ってやっていくために。そのために看護の代表者を国政に送る必要性を再認識したはずであった。支部の皆様にはご理解して頂き、一緒に活動したり大変な協力をお願いしてしまっただけ。しかし、結果として、何のための2年間だったのか、自分の無力さが情けない。ただ走り続けた2年間だったのではないのか、今しばらく考えたい。

それは、今後どうするべきか、看護連盟の役割等について私見を述べる機会を頂きたい。

『19年参議院選活動をふりかえり』

離島地区五島支部長 藤 和枝



ことのほか暑い夏と激しい逆風の中で参議院戦が始まり、終わりました。「戦い済んで日が暮れて」佐藤愛子の小説そのまま、予想以上の結果に呆然としながらも、坂下幹事長と共に過ごした数ヶ月の活動に疎漏はなかったか反省もしております。

五島支部は会員が少ないだけ「余所の数倍動かなければの合言葉」で各病院はもとより、民間の団体及び個人にお願いまわりその間にアンフィニAの再々確認。また買い物先でも小さいメモ紙に「松原まなみ」と記し、心知った人に握らせての毎日でした。公示過ぎは電話作戦、ポスターは一枚も無駄にすることなく貼って回り、凝縮した最後の追い込みをかけました。

435票の数は看護協会・連盟会員・OB・地元の自民党のご協力のお蔭と感謝いたしております。

希望はかなえられませんでした。山口会長様の指導力のもと会員の団結力を心に刻み、3年後の教訓にいかして参りたいと思います。

参院選を終え思ったこと

県北第1支部 村井 良子

8月に入り一段と暑い日差しが照り続ける毎日です。7月の参院選挙では、本当に残念な結果になってしまい、何故？と言う気持ちにひしがれてしまいました。自分なりに精一杯活動したと思いましたが……。数字的には伸びなかった、これが現状です。今回目標には達成することは出来ませんでした。これからの連盟活動についてもう一度考え直さなければならぬことが見えてきた様に思います。

病院にとっては、会員、非会員の温度差を感じる。

私個人、連盟会員一人としてすべてをどううめていくかはその病院、施設の“長”へゆだねるものだろうが、看護協会会員がオール連盟会員だと言う事を認識する。

リフォーム看護連盟になってから一人一人の行動が変わってなかった。今後の行動をどうしなければならぬのか？が今後の課題だと思います。

組織力って縦と横の繋がりが大事!!

県北第2支部北松中央病院施設リーダー 山中由貴子

県北最西端にある我が北松中央病院は、連盟会員95名の小規模組織であります。リフォーム連盟活動開始直後より、少しずつ、そして着実に会員組織末端までアンフィニAが浸透し、手ごたえ十分の状況で本選挙を迎えました。一人一人がアンフィニAの役割をしっかりと果たし300名を超える得票数を獲得できました。私たちの代表者を何とか国政に送りたいと心から願いを込め皆が必死で頑張った結果だと思えます。自民党に対する逆風が吹き荒れ、厳しい選挙戦で思うような結果が出ず本当に残念です。看護組織団体の政治に対する関心の希薄さに驚き、組織が大きくなればなるほどもっとも組織のトップが自覚し、縦と横のつながりを強化していくことが必要だと感じました。そして今後連盟活動が会員一人ひとりに、もっと身近なものとして、不可欠なものとして素直に感じ受け止められるよう、各組織にあったやり方を模索していくことが大切だと思います。当院代表の森下幹事、各師長、連絡員の皆さん、本当にお疲れ様でした。これからも共に声をかけあっていきましょう。



参院選 リーダー 連絡員 OB

施設リーダーとして、連盟活動を振りかえって

県南第1支部 森垣 恒子

今回、施設リーダーとして活動に加わって、今までは、どちらかという連盟活動、内容にあまり関心もなく、積極的に活動をする方ではなかった。自分が施設リーダーになる事に多少抵抗と不安があった。しかし、何度となくリーダー研修会に参加し看護連盟の歴史から役割、活動内容を知り、学び、自らが皆に伝えていくという役目を任された事で、今までよりは理解・納得のうえで考える事ができるようになったと思う。他施設の人とも関わる事ができ話を聞き、皆真剣で、積極的な熱意にも影響を受け、力になったと思う。私の力不足、行動不足もあり、スタッフへ十分に伝える事ができ、理解してもらったかは解らないが、あまり関心のなさそうな私が、日々活動し声かけをしている姿を見て、周りのスタッフが、少しでも刺激を受けてくれていたのなら嬉しいと思う。結果が出せなかったのは皆同様残念だったが、皆の反応から、今回の選挙は、今までの中で一番真剣に声をかけ頑張ったという言葉が聞かれたので、皆の意識づけ、自覚にもなったと思う。これで終わってしまうのではなく、これからもこの気持ちや自覚を忘れない様にしていきたいと思う。



施設リーダー・連絡員の活動について

県南第2支部 本田真由美

昨年より、リフォーム連盟で「松原まなみさんを国会へ」を合言葉で取り組んだ。

アンフィニAが二人の子供を作り、子供の自立と松原さんの名前が言えるようミニ研修会やビデオの放映を行った。

公示後会員は必ず期日前投票に行くよう声かけ又、当日選挙を済ませた人は、確実に連絡員に報告した。

施設全体一生懸命取り組んだ結果、選挙に行ったことがない会員、若い介護職からも「投票に行った」との嬉しい言葉もあり、全体が盛り上がった選挙だったのに、本当に残念でなりません。

初めての連盟員としての活動について

県南第3支部 福田 松文

私は、今年の4月から原爆病院手術室の連盟連絡員をしています。参議院選挙に向けて手術室連盟員の方に松原まなみ先生の紹介ハガキを知り合いの方に対して書いてもらったり、選挙に対する反応を電話で聞いてもらったりしましたが、連盟員の方の協力のもと、苦労することなく活動することができました。

選挙の結果はとても残念でしたが、次回の選挙では当選されるように今後も活動していきたいと思います。



を 終 え て

の

看護連盟活動に参加して

県南第4支部 永田さとみ

私は、現在20代の看護師で、連盟活動に参加して2年目になります。連盟活動に参加し、看護界には、離職率が高いことや、患者様は勿論、看護師自身の安全を確保すること、看護師独自の役割を明確にし、質を高めることなど、深刻な問題が山積みされていることを知りました。連盟活動に参加しなければ、この現実を知ることもなく、問題としてとらえることもなかったと思います。そして、これらの問題を解決する術が、国会に看護の代表を送ることだということも知らないままだったと思います。

松原まなみ先生が、長崎に来られ、看護に対する熱い思いを語られた、あの講演にもっと若い看護師が多く参加できれば、日本全国の看護師全てにも伝われば、この現実も打破できるのではないかと思います。松原まなみ先生には、これまで同様、看護に対する熱い思いを日本全国に向けて発信し続けて欲しいです。

そして私たちも、この問題に屈することなく立ち向かっていくことが大事だと思います。



OBの皆様のボランティア活動

今後も頑張ります

県央第2支部 立川 明子

この度の参院選では必ず松原まなみ先生が当選すると信じていました。リフォーム連盟に変わり今までになくとても活動しやすく手応えがありました。何回か連盟の研修を受けるたびに皆様の熱気を感じ絶対に当選して頂きたい、と言う気持ちで1票でも多くなるよう働きかけました。今回は残念な結果ではありましたが、現場から看護の声を必ず政治に届けるためにも、私たちは連盟活動を頑張りたいと思います。

平成19年度 長崎県看護連盟通常総会

H19.6.30(土)
ながさき看護センター
508名出席



編集後記

ある支部長さんからいただきました。

なかなか原稿を書く気になれませんでした。書こうとすると涙が止まらないんです。どうして票がとれなかったんでしょうか。何か政治活動のむなしさを感じます。松原さんの事を思うとつらいです。



広報委員会は会員の皆様にもっと連盟（政治）に関心をもっていただきたいと活動しています。社会は政治で変わっていきます。今回の選挙結果で政治の場にわれわれの代表が一人いなくなりました。大きな力が抜けてしまったのです。これからを考え、今一度、会員の皆様の政治への関心を高めることに、より一層の努力をしなければいけないと考えております。

金澤・中嶋・野口・本村・本田

<http://kangorenmei-nagasaki.jp/>